

令和4年度1学期始業式「訓話」(令和4年4月6日)

新潟県立長岡高等学校長
鈴木 勇 二

改めまして、皆さん、おはようございます。

いよいよ令和4年度の始まりです。日も長くなり、すっかり春めいてきました。いかにも新しい年度の始まりという感じになりました。新しいクラスで、これまでとは違う仲間たちとこれからの1年間を過ごすことになります。初めのうちはぎこちなさもあるでしょうが、まずはクラスメイトと早く仲良くなって、お互いに高め合う高校生活を作り上げていきましょう。

では、今日は3点について話をします。

まずは、新学期に関連して、「出会い」の大切さについてです。このことは、午後からの入学式で新入生にも話したいと考えています。

長岡高校には、各地の80校を超える中学校から、数多くの生徒が入学しています。具体には、今日からクラスを共にする同級生がいます。先輩後輩という年齢の異なる人、先生という大人の人もあります。部活動に入れば他校の生徒とも出会いますし、スーパーサイエンスハイスクールの取組みや行事を通して、校外の様々な方々と出会います。

このように、皆さんには出会いの機会がたくさんあります。皆さん、勇気を持って、多くの出会いを楽しんでください。そして、出会いの中で望ましい人間関係を学び、また、作り上げていきましょう。ただ、出会いを楽しむ上で忘れないでほしいことがあります。人との関わり方を学ぶわけですから、失敗するのが当たり前、ということです。人の失敗を責めないで、お互いに温かく受け止めてください。多くの出会いと、多くの失敗の中で、相手の気持ちを理解できる感性と受け止める心の強さを育て、共同して生きていくことができる立派な大人になりましょう。

2つめは、新型コロナ関連です。新型コロナウイルスの感染が収まらない状況が続いています。新聞では、毎日、臨時休校となる学校が発表され、中には、臨時休校の数日後にまた臨時休校という学校もあります。春になり、人の動きが活発になってきたことも大きく影響しているのでしょう。また、春休み中に、学校生活という規則正しい生活リズムが

崩れて、感染対策について気の緩みが出ているのかもしれませんが。十歳台前半や三十歳台、四十歳台の感染が増えてきている傾向も見られます。親子での感染、家庭内での感染が増えてきているということでしょうか。行政もその対策に動いていて、若年層の三回目接種を強く促しています。感染対策の一つとして考える必要があると思います。

とはいえ、これまで皆さんが実行してきた基本的な感染症対策は、最も有効な方法であると思われます。気を緩めず、ソーシャルディスタンスをとる、マスクの着用、手指消毒、黙食、大声を出さない、歯磨き時の会話を控えるなど、これまでと同様に徹底していきましょう。

3つめは、読書の話です。3週間ほど前の終業式で「目が合った本を選べば良い」という話をしました。皆さんはそんな本に出会いましたか。まずは、図書館や本屋に行かなければなりません。時間がないと言わずに、昼休みや放課後に図書室に寄ってみたり、学校帰りの途中で図書館や書店に寄ってみてはどうでしょうか。

終業式の後、私はまず、『同志少女よ、敵を撃て』（逢坂 冬馬／早川書房）という小説を選びました。現在ヨーロッパで起きている悲惨な出来事が頭にあったこともあり、読んでみようと思いました。ちょうど3連休で天候も悪かったこともあり、晴耕雨読でしょうか、600ページ近い長編ですが連休中に読み終わりました。

次には、図書館司書の熊木さんに紹介してもらった、久保寺健彦さんの「青少年のための小説入門」（集英社文庫）を読みました。高校生との青年の2人で協力しながら、主に青年がストーリーを考え、高校生が文章を作っていくという分業で小説を書き上げていく物語で、会話の部分が多く極めて読みやすいと思いました。こんなふうに小説は書かれる、小説家も小説を書き進めながら話の先が見えなくなることがある、そうならないためにどのような手をとるかなど、いままで考えたことがなかったことが満載で楽しく読ませてもらいました。皆さんにも読んで欲しい一冊です。

新年度を迎え、部活動では地区大会が間近になっています。日々の学習と部活動でなかなか時間がとれないかと思いますが、「目が合った本」を見つけたり、人から紹介してもらったりしながら、少しずつ読み進めて欲しいと思います。

以上で今日の話が終わります。

皆さん、元気に、そして有意義に、1年間を過ごしましょう。